

平成 29 年度(2017 年度) 通訳案内士 1 次試験解答 (英語)

問題	解答番号	解答	配点		問題	解答番号	解答	配点
1-1	1	3	2 点		4-1	21	1	6 点
1-2	2	6	2 点		4-2	22	3	6 点
1-3	3	4	2 点		4-3	23	4	6 点
1-4	4	2	2 点		4-4	24	2	6 点
1-5	5	3	2 点		4-5	25	3	6 点
2-1(a)	6	2	1 点		5-1	26	5	5 点
2-1(f)	7	1	1 点		5-2	27	2	5 点
2-2	8	4	2 点		5-3	28	3	5 点
2-3	9	4	3 点		5-4	29	5	5 点
2-4(2)	10	3	1 点		5-5	30	1	5 点
2-4(3)	11	2	1 点		5-6	31	4	5 点
2-4(4)	12	4	1 点					
2-4(5)	13	3	1 点					
2-5	14	A	2 点					
2-6	15	2	2 点					
3-1	16	2	3 点					
3-2	17	1	3 点					
3-3	18	4	3 点					
3-4	19	3	3 点					
3-5	20	3	3 点					
<p>【通訳案内士試験ガイドライン (抜粋)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合否判定は、原則として 70 点を合格基準点として行う。 ・ 実際の平均点が、合格基準点から著しく乖離した科目については、合格基準の事後的な調整を行うこともある。 								

平成 29 年度(2017 年度) 通訳案内士 1 次試験総評 (英語)

True Japan School 講師 安河内志乃

2016 年度と比べると問題の分量が減り、内容もストレートな観光目線の問題が多くなりました。

問題 1 の長文では昨年度の形式を踏襲しながらも、関東の私鉄の目的地を問うなど、実際の観光情報に即した問いが見られます。

なお、解答番号 2 については、⑥の **encounters** でも、⑧の **bumps into** でも意味としてはどちらでも通じるはずですが、出題者の感覚に依るところが大きいのですが、**encounter** には「人が困難や危険などに直面する」という意味があることから **encounter** を取りました。**bump into** ですと、「ドシンと当たる」という音の感覚が強くなります。

問題 2 は工場の夜景ツアーという大変に今的なトピックを扱っています。

問題 3 は茶の湯に関する英文の和訳を選ばせる問題ですが、日本語として分かりにくい選択肢はありませんでした。語句整序問題は、2 年続けて正解がひとつではないという問題がありましたが、今年度は姿を消しました。

問題 4 の和文英訳選択問題に関しては、設問が昨年度よりひとつ減り 5 問となった代わりに、一問 6 点の高配点となりました。

問題 5 の日本事象選択問題は昨年度よりもそれぞれの英文がぐっと短くなり、内容的にも易くなりました。祇園祭と能は授業でカバーしましたので、頭をひねるのは「塔頭」くらいだったのではないのでしょうか。

今年度の特徴は、全体的に内容が比較的ベーシック、ストレートになり、観光目線に沿ったテーマが選ばれていること。語句整序がなくなったこと。難易度は去年より下がりましたので、平均点は上がると思われます。